

特定外来生物

ミズヒマワリ

真正双子葉類 キク科 *Gymnocoronis spilanthoides*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

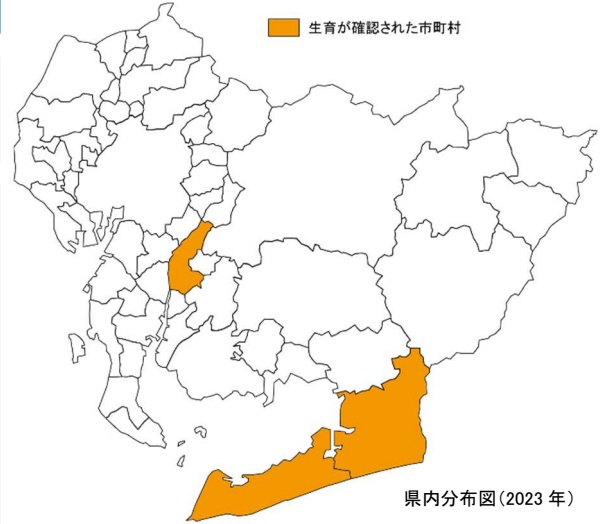
基礎情報

原産地

- ・中央・南アメリカ

現在の分布

- ・世界では、オーストラリア、ニュージーランド、台湾、中国等に移入分布している。
- ・国内では、関東地方から九州北部にかけて確認されている。
- ・県内では、豊橋市、刈谷市、田原市の河川やため池で確認されている。

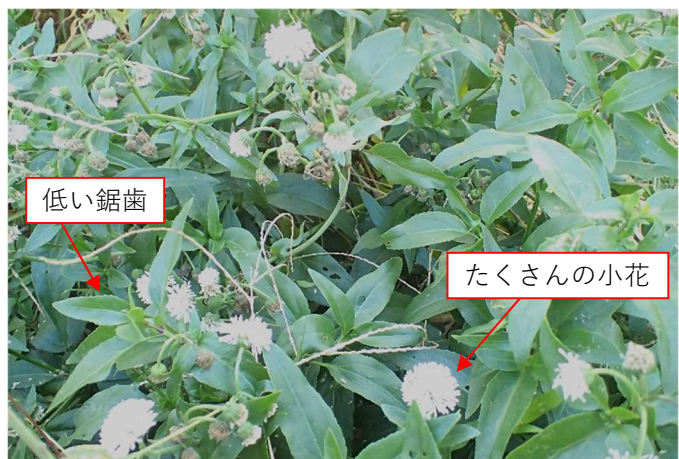


侵入の経緯

- ・鑑賞用の水草として輸入・国内栽培され、ペットショップやインターネット上で市販されていた。
- ・1996年に本県豊橋市梅田川で初めて定着が確認された。確認時には既に生育範囲が広がっており、その数年前から生育していたと考えられる。
- ・アクアリウム等観賞用に意図的に導入後、野外に逸出したと考えられる。

形態

- ・水中から水の上に伸びる抽水性の多年生草本。
- ・茎は高さ0.5~2m以上。水深が深いと長さ1m以上になり、直立できなくなると水面に倒れて浮かぶ。横に伸びた茎の節からは新たに枝や根が出る。
- ・葉は名前の由来であるヒマワリの葉に似ており、対生(1つの節から1対の葉がつく)。長さ20cm程度になる。葉は根元の方が幅が広く、先に行くに従って細くなり、先端は尖っている。葉に毛はなく、縁には低い鋸歯(ギザギザ)がある。
- ・花は100~150個の白い小さな小花が集まってできた直径6~10mmの丸い頭状花で、枝分かれした茎の先に複数がつく。
- ・果実はヒマワリ等と同じ瘦果(薄くて硬い果皮の中に一つの種子が包まれている果実)。



生育環境

・池沼、河川、水路などの水辺に生育する。本県では、平野部の河川やため池で確認されている。

生態・ライフサイクル

- ・開花期は10～11月(6～11月との報告もある)
- ・果実(種子)をつけるが、茎や根茎の断片からのクローン成長によっても増殖する。
- ・水上で茎を伸ばし、直立できなくなると水面に倒れて浮かび、マット状の群落を形成する。
- ・栄養繁殖が旺盛で、茎や根茎の断片から容易に再生する。
- ・茎はちぎれやすく水に浮くため、断片が水流によって運ばれ、流れ着いた先で増殖する。このため、大雨時の増水や水流によって広範囲に拡散する可能性がある。
- ・本県では冬季に葉は枯れるが、太い茎は枯死せずに残り、翌春には茎の節から新たな枝が伸びて再び群落を形成する。
- ・花は、チョウ、ハエ、アブ等の訪花昆虫を非常に強く誘引することが知られている。季節による長距離移動(渡り)をするチョウとして有名なアサギマダラが吸蜜することでも知られている。
- ・アレロパシー活性(他の植物の生育を阻害する化学物質を分泌する性質)がある。

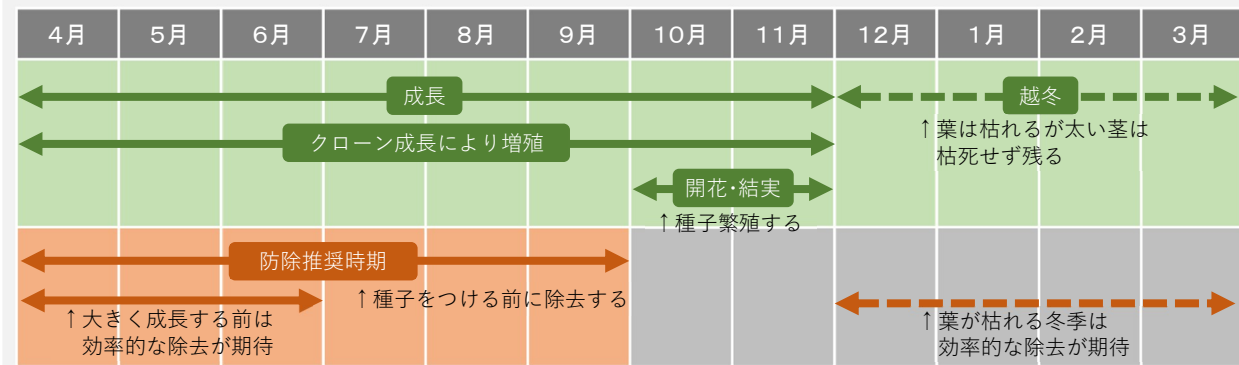


水路で繁茂するミズヒマワリ



アサギマダラ

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

・池沼、河川、水路などにみられる類似種として、ヌマダイコン(在来種)がある。

本種	識別のポイント	類似種	識別のポイント
ミズヒマワリ (特定外来生物)	<ul style="list-style-type: none"> ・葉の表、裏ともに毛がない。 ・葉の縁に低い鋸歯(ギザギザ)がある。 ・花の終わりは下を向く。 	ヌマダイコン (在来種)	<ul style="list-style-type: none"> ・葉の表、裏ともに短い毛がある。 ・葉の縁に粗い鋸歯(ギザギザ)がある。 ・花の終わりは下を向かない。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

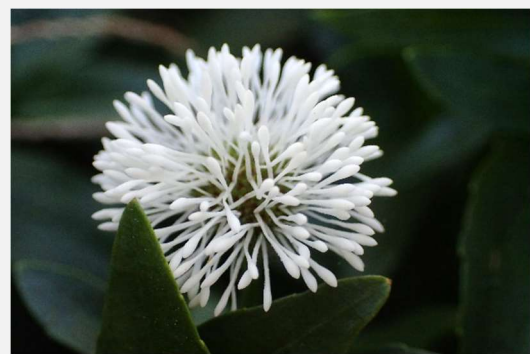
- ・繁殖したミズヒマワリが大雨で大量に流れると、河川や水路の流水障害、取水口や排水口の閉塞、洪水の発生が懸念される。
- ・繁殖力が強く、ため池等の水面を覆いつくすため、在来の水生植物の生育場所を奪う。また、光を遮り、在来の水生植物の光合成を阻害する。
- ・大量の植物体が枯死して腐敗すると、水質や底泥の悪化を引き起こす。
- ・アサギマダラ等のチョウ類、ハナアブ、ハエ等の訪花昆虫が多く集まるため、在来植物の受粉に影響を及ぼす可能性がある。
- ・他の植物の生育を阻害する化学物質を分泌する(アレロパシー)。



池で繁茂するミズヒマワリ(環境省提供)

生育・被害の確認方法

- ・池沼、河川、水路など、本種の生育の可能性がある場所を踏査し、生育個体を目視により確認する。花が目立つため、開花期(10~11月)が識別しやすい。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



ミズヒマワリの花

防除方法

- ・侵入の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効である。
- ・手作業や重機による除去が一般的である。

推奨時期

- ・手作業や重機による除去は、植物体が大きく成長する前や種子をつける前(4~9月)
- ・生育場所が判明している場合、葉が枯れる冬季は、効率的な除去(駆除作業の労力や、処分量の軽減)が期待できる。

具体的な防除方法

- ・群落の規模が小さく個体数が多くない場合は、他の生物に対する影響が小さい手作業で除去する。茎や根茎が残っていると容易に再生するため、地上部の刈り取りのみではなく、根の抜き取りや底泥ごと剥ぎ取るようにする。
- ・個体数およびバイオマス(植物体の量)が多く大きな労力が必要となる場合は、重機により底泥ごと除去する。
- ・遮光シートによる群落抑制も試験的に行われている。
- ・最終処理は、一般廃棄物として廃棄する(各自治体の基準に従う)。



防除作業に伴う断片の流出防止のためのネット設置

【主な防除方法】

区分	方法	概要
物理的防除	手作業による除去	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業により抜き取る。またはスコップ等を用いて底泥ごと剥ぎ取り除去する。技術的に実施が容易。 ・茎や根茎の断片から再生するため、これらを残さないよう留意する。 ・地下部(根)ごと除去しないと再繁茂のおそれがある。 ・本種のみを対象とした選択的な除去が可能で、他生物への影響が少ない。 ・1度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、年に複数回実施する必要がある。
	重機による除去	<ul style="list-style-type: none"> ・重機(バックホウ等)を用いて底泥ごと除去する。 ・重機での作業後、残った断片や重機作業のできない狭い場所などは手作業により除去する。 ・選択的な除去が難しく、保全上重要な在来種も同時に除去してしまうおそれがある。
	遮光シート	<ul style="list-style-type: none"> ・遮光シートを敷設し、光を遮断して光合成を止める。 ・半年間で枯らすことができるとされているが詳細は不明。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(植物の場合は完全に枯死させる必要がある)。地方公共団体の職員が処分のために一時的に行う特定外来生物の運搬は飼養等禁止の例外規定に該当するが、市町村が単独で長期的に防除を行う場合は、国による防除の確認を受けることが望ましい。なお、地域住民やボランティアが植物に関して小規模な防除を行う場合は、以下の要件をすべて満たせば保管・運搬が可能になる。

- ①小規模な防除を行う者が、当該防除に伴い運搬をするものであること。
- ②防除した当該植物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。
- ③当該植物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。
- ④防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表していること。

- ・茎や根茎の断片から容易に再生するため、作業箇所の下流にネットやオイルフェンスを張り、断片が下流に流れないようにする。作業に使用した道具、長靴、重機などに断片が付着して運ばれる可能性があるため、作業後は洗浄する。
- ・除去した個体は袋に詰める。水を切る際は、散逸しないようブルーシートやアスファルト等の上で行う。
- ・作業後も定期的に確認を行い、再生が認められた場合は直ちに取り除く。

必要な法令上の手続き等

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づく防除の確認・認定の手続き(市町村単独の防除の場合)
- ・河川法に基づく河川区域内作業届、工作物の新築許可申請等(場所・方法によっては必要)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 維管束植物 > ミズヒマワリ (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81120.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > ミズヒマワリ (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-02.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 植物 (環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf
- ・外来種等が農業水利施設に及ぼす影響と対策の手引き 令和5年3月版 (農林水産省 農村振興局,2023)
- ・福岡県侵略的外来種防除マニュアル 2021ー福岡県侵略的外来種リスト 2018 における重点対策外来種 20 種ー (福岡県,2022)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.179 ミズヒマワリ (瀧崎吉伸・芹沢俊介)